



## (35) 急成長見込めるソフトウェアアウトソーシング

野村総研(上海)咨询有限公司

### ◇中国市場の現状

近年、ソフトウェアアウトソーシング市場の拡大が著しい。2006年の世界市場の成長率は20%に達し、総額480億ドルを超えた。ソフトウェアアウトソーシング産業の大幅な成長は、中国ソフトウェア産業に市場の拡大だけでなく、先端的なソフトウェア開発管理のプロセス、厳しい品質管理のノウハウももたらした。

06年の中国ソフトウェアアウトソーシング市場の規模は14億3000万ドル、成長率は年55.4%であった。しかし、世界シェアをみると中国は3%にすぎず、インドの41%、アイルランドの19%と比べたら相当な差がある。なぜこうなったのだろうか。

図1のように、発注元では米国・欧州が最も大きいことがわかる。米国・欧州企業のアウトソーシング先は英語圏のインドやアイルランドなどに集中する。一方、中国にとって最も大きいアウトソーシング発注国は日本である。06年の日本からの発注額は8億7200万ドルで中国アウトソーシング市場の61%を占めており、米国・欧州は計26.5%にすぎなかった。要するに、中国は最大の発注元である米国・欧州を十分とらえていないのである。

世界ソフトウェアアウトソーシングの主要発注国と地域(2006年)

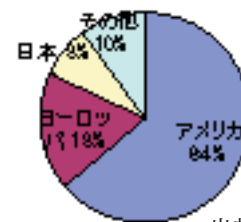


図1

出典：CCID

### ◇中国の問題点と対策

中国ソフトウェアアウトソーシング産業は日本市場に頼りすぎている。今後、いかに最大市場である欧米企業を獲得できるかが、業界最大の課題となる。これを解決するには以下の対策が必要と考える。

**規模拡大：**インドなどソフトウェアアウトソーシング大国と比べ、中国企業の規模（開発人数）はまだ小さい。企業数は多いものの、ほとんどが数十人、数百人規模の中小企業ばかりである。開発能力、開発コストやブランドの構築にも非効率である。

**人材育成：**人材の面では、グローバルマーケットに対応できる、「外国語+IT」能力を持つ、高レベルの複合型人才が不足している。SE、PGレベルに人材が集中し、プロジェクトマネジメントや要件定義ができる上級の人材がなかなか育たない。この人材問題は既に産業発展のボトルネックになっている。

**ブランド構築：**中国ソフトウェア企業の開発力、英語力を強化しアピールすべきである。05年から政府主導で政策・教育・交流・ブランド宣伝などの活動を強化している。その結果、06年米国や欧州市場向けはそれぞれ79.3%、71.8%とハイテンポで成長、市場シェアもそれぞれ2.9ポイント、0.5ポイント拡大した。

中国のソフトウェアアウトソーシング事業発展の余地は大きい。CCIDの予測では、今後5年間この業界は42.8%の年平均成長率で急速に成長する。中国ソフトウェアアウトソーシング産業は、国際市場でいっそう重要な地位を占め、より明るい未来があることを確信している。

(野村総研(上海) 咨询有限公司 コンサルタント 周レイ/主任コンサルタント 吉永欣栄)

中国ソフトウェアアウトソーシング市場の発注国と地域(2006年)

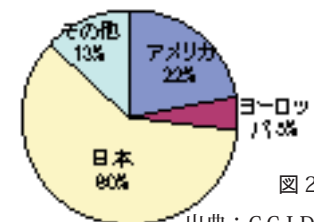


図2

出典：CCID